

イサム・ノグチ

発見の道

Isamu Noguchi:

Ways of Discovery



2021年4月24日[土]—8月29日[日]

東京都美術館 企画展示室

イサム・ノグチ 発見の道

20世紀を代表する芸術家イサム・ノグチ(1904-1988)は、彫刻のみならず、舞台美術やプロダクトデザインなど様々な分野で大きな足跡を残しました。しかし、彼は生涯を通じて一貫して彫刻家であり続けました。晩年の石彫はその到達点というべき世界です。日本人の父とアメリカ人の母の間に生まれ、アイデンティティの葛藤に苦しみながら、独自の彫刻哲学を打ち立てたノグチ。半世紀を超える創作活動において、彼に示唆を与え続けたのが、日本の伝統や文化の諸相でした。例えば、京都の枯山水の庭園や茶の湯の作法から、ノグチは彫刻の在り方を看取することができたのです。

東京都美術館で開催する「イサム・ノグチ 発見の道」は、晩年の石彫に至る道行きを多様な作品で辿り、ノグチの精髓に迫ろうとするものです。そのため、彫刻と空間は一体であると考えていたつくり手に相応しい、特色ある3つの展示構成を試みます。

イサム・ノグチの作品は、われわれが今、希求してやまない何かを示してくれるに違いありません。

Isamu Noguchi: Ways of Discovery

A leading figure in 20th-century art, Isamu Noguchi (1904-1988) made major contributions not only to sculpture but also to fields including stage art and product design. Noguchi yet remained a sculptor first and foremost throughout his life. He considered the stone sculptures he created in his final years to be representative examples of his life's work.

The son of a Japanese father and American mother, Noguchi constructed a profound sculptural philosophy while grappling with his identity as an artist. What continually inspired him on his path as an artist for over a half-century were Japanese traditions. His contact with Kyoto's karesansui ("dry landscape") gardens and tea ceremony aesthetics, for example, enabled him to grasp "what sculpture can do."

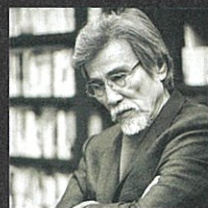
This exhibition traces the "ways of discovery" leading to the stone sculptures of Isamu Noguchi's final years, endeavoring thus to reveal the essence of his art. This it does through varied works from throughout Noguchi's career, placed in three distinctive gallery spaces suited to the sculptor's view of space as a continuation of his sculpture.

The works by Isamu Noguchi in this exhibition have a power to show what we, ourselves, so earnestly seek today.



撮影：開野欣次

ノグチ作品に漲る^{みなぎ}圧倒的なまでの緊張感、溢れ出る生命力。その真髄に触れる絶好の機会だろう。(安藤忠雄・建築家)



撮影：山本遼

石に語らせ、光をひそめ、セカイの^{くびき}轆を解き放つ。イサム・ノグチが、ここにいる。(松岡正剛・編集工学研究所所長)

1.《坐禅》1982-83年 溶融亜鉛メッキ銅板 イサム・ノグチ財団・庭園美術館(ニューヨーク)蔵 Photo: Josh White/JWPictures 2.《黒い太陽》1967-69年 スウェーデン産花崗岩 国立国際美術館蔵 3.《ヴォイド》1971年(1980年鋳造) ブロンズ 和歌山県立近代美術館蔵 4.《化身》1947年 ジョージア産桃色大理石 クレラー・ミュージアム美術館蔵 Photo: Victor Nieuwenhuijs 5.《発見の道》1983-84年 安山岩 鹿児島県霧島アートの森蔵 Photo: Kevin Noble 6.《あかり》インスタレーション(イメージ) 7.《あかり(E)》1954年 和紙、竹、鉄 8.《プレイスカルプチュア》1965-80年頃 鋼鉄 Photo: Nicholas Knight (イサム・ノグチ財団・庭園美術館(ニューヨーク)での展示風景。本展では新規製作したものを展示[茨城放送蔵。]) 9.イサム・ノグチ庭園美術館(牟礼) 石壁サークル 10.《フロア・ロック(床石)》1984年 玄武岩 11.《ねじれた柱》1982-84年 玄武岩 12.およびオモテ面:《無題》1987年 安山岩 裏面:イサム・ノグチ庭園美術館(牟礼) イサム家 10、11、12.オモテ面の作品:イサム・ノグチ財団・庭園美術館(ニューヨーク)蔵(公益財団法人イサム・ノグチ日本財団に永久貸与) 3、6、7、9-12.オモテ面、裏面撮影:齋藤さだむ ©2021 The Isamu Noguchi Foundation and Garden Museum/ARS, NY/JASPAR, Tokyo E3713

1. 彫刻家ノグチの精髓に迫る

国内外の多数の大型彫刻をはじめ、およそ90件の作品が集結。さまざまな発見の道を歩みながら、「彫刻とは何か」を追求したノグチ芸術の精髓に迫ります。



1



2



3



4



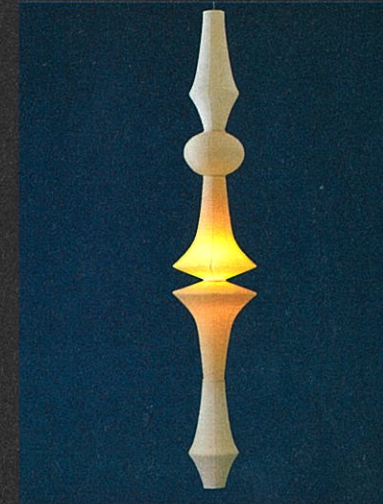
5

2. かつてない“ノグチ空間”の体感型展示

光の彫刻「あかり」を150灯用いたインスタレーションなど、ダイナミックな展示構成により、“ノグチ空間”の醍醐味を体感していただきます。



6



7



8

3. ノグチ芸術の到達点・牟礼の石彫群が初めて東京へ

香川県高松市牟礼町で手がけた晩年の彫刻は、ノグチ芸術の到達点。牟礼に残された石彫群が、同所以外でまとめて展示されるのは今回が初となります。



9



10



11



12

イサム・ノグチ

発見の道

Isamu Noguchi: Ways of Discovery

2021年4月24日[土]—8月29日[日]

東京都美術館 企画展示室

*新型コロナウイルス感染症拡大防止に関する取り組みについては、東京都美術館ウェブサイト<https://www.tobikan.jp>をご確認ください。

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都美術館、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション
協賛：DNP大日本印刷、三菱商事
特別協力：イサム・ノグチ財団・庭園美術館（ニューヨーク）、公益財団法人イサム・ノグチ日本財団 イサム・ノグチ庭園美術館
協力：茨城放送、日本航空
展覧会公式サイト：<https://isamunoguchi.exhibit.jp/>
お問い合わせ：03-5777-8600（ハローダイヤル）
*開室時間、休室日、観覧料については詳細が決まり次第、展覧会公式サイト等でお知らせいたします。展示作品等、展覧会の詳細については、今後の諸事情により変更する場合があります。

Tokyo Metropolitan Art Museum
Saturday, April 24 – Sunday, August 29, 2021

【企画展のお知らせ】

Walls & Bridges 世界にふれる、世界を生きる
東京都美術館 ギャラリーA・B・C

2021年7月22日[木・祝]—10月9日[土]

「記憶と想像・創造」をキーワードに5人のつくり手を紹介します。

*特設サイト <https://www.tobikan.jp/wallsbridges>

文化でつながる、未来をつなげる。
THE FUTURE IS ART
TokyoTokyo
FESTIVAL



•JR上野駅公園口より徒歩7分・東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅7番出口より徒歩10分・京成電鉄上野線より徒歩10分
•当館には駐車場はございませんので、車での来館の際はご注意ください。



東京都美術館
TOKYO METROPOLITAN ART MUSEUM

〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36 <https://www.tobikan.jp>